

我が日本民族をキリストへ

日本民族総福音化運動協議会

第10号

総福音化を目指して

日本民族総福音化運動協議会理事
聖書福音聖川教会 牧師

當銘 由正



「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」

マタイ二八・一九〜二〇

日本宣教が遅々として進まないことに多くの牧師たちは苦悩し、日本の福音化の方策を模索してきました。そのため、良書も多く出版されてきました（最近では「異教としてのキリスト教からの脱却」や「メイド・イン・ジャパンのキリスト教」等）。

明治六年（一八七三年）「キリストン禁令の高札撤去」によりキリスト教が自由に伝道がな

れて一三四年。しかし、キリスト者はあまり増えない。一体、何が「日本の福音化」を妨げているのでしょうか。

私自身も沖繩で教会伝道三十八年目を迎え、どのようにすればこの素晴らしいキリストの福音を受け入れてもらえるのか、日々祈りつつ模索しているところ。とは言ってもこんな弱い小さな頭でいくら考えても妙案など出るのはありません。

そこで、私自身の求道、入信、信仰生活、さらには牧会経験から教えられたことを通して「日本民族総福音化への道」について考えてみたいと思います。

ところで、何が日本の福音化を妨げているのでしょうか。日本宣教の障害となっているものは何でしょうか。私は、第一に、

日本のキリスト教は「福音に倫理が先行しているから」ではないかと常々考えています。実は、私は高校二年生のとき、倉田百三の「青春をいかに生きるか」という本の「聖書を読む前と読後とは霊的・道徳的・水準を異にする」という一文を読み、聖書の偉力について考えさせられ、数年後やつと聖書を手にするこゝとができ、一読した後、聖書をもっと学びたいと思い、牧師館を訪ねました。

そのとき、私は二つの質問をもっており、納得できたら教会に出席しようと考えていました。その一つは、「酒は飲んでよいでしょうか」というものでした（当時大学では柔道部に属しており皆酒に強かった）。二つ目は「祖先崇拜をしてよいで

ようか」というものでした。私は當銘門中（親戚）の長男です。沖繩では祭司職のようなものです。その問いに対して、老牧師はパウロが愛弟子のテモテに少量のブドウ酒を健康のために勧めたこと、また、墓の掃除やお花を活けることなどの話をされました。私は納得できたので、では来週の日曜日からよろしくお願います、と言って牧師館を後にしました。

その後、三ヶ月して福音が理解できたので、三日間断食して酒をやめました。もし、あのとき牧師が酒やタバコは絶対ダメです、と答えていたら今の自分はないだろうと考えています。福音が分かれば倫理はついてくるのです。しかし、倫理が先行すると、ついに福音から遠ざかってしまうのです。

障害の第二は、罪の問題から入ることではないでしょうか。牧師は、神、罪、救いから入らないと伝道ではないかのように入らねば、また本人もそう考えています。しかし、日本人には古典としての聖書から入り「聖書による人生論」から話した方が受け入れやすいのではないのでしょうか。私は自分の経験から牧会伝道からもそう考えています。日本人は、神についても

罪についても理解させるのは難しいけれども、聖書はほとんどの人が古典中の古典として理解しており受け入れやすい素地をもっています。

第三の障害は日本文化に対する否定的な考えではないのでしょうか。特に、終戦後日本的なもの否定されてきました。年中行事も日本の行事はほとんど教会では偶像礼拝につながるとして取り入れられていません。勿論すべてが受容できるとは思いませんが、大半の年中行事は取り入れ（初詣礼拝など）、キリスト教的なものにしていく。重箱ならそれを用いて中身を福音に切りかえていく。換骨奪胎していくわけです。そうすれば多くの日本人にも受け入れやすいのではないのでしょうか。そうではないと、日本人をやめないとクリスチャンになれないような感じます。

これまでの日本宣教における第四の障害は御言葉だけ、あるいは教え中心にあったのではないのでしょうか。（沖繩最初のプロテスタント教会の名称は「講義所」であった）。私は三十年間福音派の中で伝道してきました。強調される聖句は「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい」（Ⅱテモテ

四・二）であり、旗印は「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」（マルコ一六・一五）であった。しかし、一七節以降が伴って宣教の業は大きく前進するのです。「しるしと不思議」の伴う宣教が日本のキリスト教界に必要なのではないのでしょうか。私自身は牧会伝道においても、教会堂、信徒の家の聖別祈祷と癒し、悪霊追い出しをするようになってから教会が大きく成長し、新会堂を建設することができました。最後に、日本宣教の障害となっているのは「牧師と信徒」の関係にあるのではないのでしょうか。

か。私も、もうろくじい（もう六時）に近づいて（六十七歳）、最近特に気になることがあります。それは若い伝道者の「燃え尽き症候群」といわれるものです。牧師が孤軍奮闘し、最後は疲れ果て伝道牧会から去って行く。戦国時代でも主君と家臣がバラバラの藩はいち早く敗れ去っていききました。牧師と役員と信徒が一体となれば、日本の教会ももつともつと大きく成長し「日本民族総福音化」が達成されるのではないのでしょうか。夢をもって前進していきたいものです。

《お知らせ》

2007年度前期

評議委員会(総会)及び理事会

日時■6月4日(月)

14時～評議委員会(総会)

19時～理事会

場所■ウエルシティ東京(東京厚生年金会館)

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-3-1

TEL03-3356-1111

http://www.kjp.or.jp/hp_20/

オープンセミナー

日時■6月5日(火) 10時～12時

テーマ■リバイバルへの道

講師■稲福エルマ牧師(新宿シャローム教会)

場所■ウエルシティ東京(東京厚生年金会館)

会費■1,000円

※オープンセミナーはどなたでもご参加いただけます。

ブロック活動レポート1 沖縄ブロック

沖縄ブロック長

當銘由正

(聖書福音聖川教会牧師)



沖縄ブロックでは、二〇〇六年度毎月賛同教会を巡って、その教会と周辺の聖別と祝福を祈り、また、できるだけ多くの信徒にも「日本民族総福音化運動協議会」の働きを知ってもらうため聖会をもっています。

特に二〇〇六年度は二回の大きな大会をもちました。第一回は四月十六日、総裁の奥山実先生をお迎えして、マルコ一六章から世界宣教の重要性を強調され、会衆一同伝道への情熱に満たされました。

第二回は十一月二十五日、二十六日、副総裁の手束正昭先生をお迎えして、セミナーと大会をもつことができ、祝福された年となりました。手束先生によって、家庭を開放して集会をもつことがいかに大切かを教えられ、あちら、こちらでセルグループが増えました。

元々沖縄は、チャンプルー文化（東西南北の国々から流れ込

んできて出来上がった文化・何でも取り入れる文化）の土地柄です。従って教会でもこれまで超教派活動がよく行なわれたところでした。十一月に二〇〇〇近くの教会が、教派、教団を超えて一致協力し、フランクリン・グラーハム大会を成功させました。日本民族総福音化運動協議会の働きも、教派、教団を超えて一致協力して、沖縄の福音化のために励んでいきたいと賛同者一同熱捧をささげているところです。

今年度も賛同教会（現八教会）で毎月聖会をもち、聖会のチラシを沖縄の各教会へ配り、賛同する牧師や信徒が起こされるように願っています。

今年も四月に奥山実先生をお迎えして大会を予定しております。

沖縄ブロックのために続けてお祈りください。

ブロック活動レポート2 東京ブロック

東京ブロック長

菅野直基

(新宿福音教会牧師)



日本民族総福音化運動は、私の救われた時からの願いであり、祈りでしたので、東京のブロック長をさせて頂くことになって、これは神様から与えられた使命だと思つて受け止めて頂きました。

二〇〇六年度の東京ブロックの活動は、あまり活発ではありませんでしたが、祈り会を中心に続けて参りました。

特に、十一月には奥山実先生（総裁）と共に、四名が大久保にある淀橋教会の地下にあるファミリーストランで意見交換を主体とする会を持ちました。ここでは、今までは祈り会が中心だったので、どちらかと言えば一方的で、一人の意見を出す場所がありませんでした。特に中心になるメンバーが集まり、そこでお互いの意見交換が出来たのは非常に有意義でした。そこで驚かされたのは、みんなそれぞれに違う意見や考え方を持っているということ。しかし、その多様性が大切であると同時に感じておりますし、今後共、祈りながらその一人一人に与

えられた使命が繁栄されていく東京ブロックであればいいなと思つています。

また、十二月には、手束先生（副総裁・事務局長）をお招きしての東京ブロック集會を新宿福音教会で行ないました。参加者は、面白いことにほとんどが新しいメンバーでした。そして、約十人の集まりでしたが、非常に中味のある集會となりました。それは、手束先生が確信に満ちた日本宣教の一つの方向性と可能性を語って下さいましたし、集會後には、懇談会と称してお互いの自己紹介や意見交換の場を持つことが出来て、一同が熱い思いに満たされ、非常に有意義でした。

今年の一月には、各ブロック長が大阪に結集しての意見交換の場も与えられて、益々心熱くして、この日本民族総福音化という壮大なビジョンに向かって邁進させて頂きたいと思っております。

これからも、各ブロックのためにお互いに祈り合い、前進させて頂けたら幸いです。